



# 私たちが このまちを守る

熱き消防団



それぞれの職業に従事しながら、災害が発生した際にはいち早く現場に駆け付ける消防団員。火災における消火活動はもちろんのこと、地震や風水害などの大規模災害が発生したときには、被害の拡大防止に努めています。  
今月は、地域防災力の中核的な存在として、さまざまな災害から住民の生命や財産を守るために、普段から厳しい訓練に取り組んでいる消防団員にスポットを当てました。



## 消防団員の活動に迫る

「消防団ってどんな活動をしているのか分からない」「火事の際にだけ集まるのではしょ」消防団について、こんな声がしばしば聞こえてきます。確かに、消防団員は火災が発生すると現場に直行し、消火活動を行います。しかし、消防団員が向かう「現場」の状況をご存じでしょうか。実際の火災現場は、建物などからメラメラと炎が燃え上がり黒煙が立ち込め、人が殺到するなど、辺りは騒然とした様子なのです。そんな状況の中、昼夜を問わず消防署員と共に消防団員は火災などの災害から市民の生命と財産を守るために、危険な現場に飛び込んで行きます。

ここでは、実際に火災が発生したときに消防団員がどのような行動を取るのか紹介します。火災が発生すると消防署から各団員に無線やEメールで「ただいま発生した火災は、〇〇町〇〇付近における一般建物火災です。招集される皆様は、速やかに集合してください」という連絡が入ります。その知らせを

確認した団員らは、自宅や職場から分団庁舎に集結し防火装備を着装して消防ポンプ自動車で出動する、あるいは直接自家用車で現場に向かうのです。地元消防団車両が消防署車両よりも先に現場に到着することもよくあり、率先して消火活動に当たります。本市の消防団は消防署員の補助というよりも、共に災害現場に立ち向かうというスタンスで活動しているのです。

## 日ごろの訓練が大事

本市では、平成25年中に21件の火災が発生しました。災害現場で「ポンプやホースの扱い方に自信がない」といった状況では、消火活動に支障を来します。迅速かつ正確な器具操作で消火活動を行うためには、日ごろから訓練をしなければなりません。消防団では1カ月に1度「試運転」を実施しています。

「試運転」とは、実際に消防ポンプ自動車を動かし、消水利から水を出す訓練のこと。この試運転を毎月行うことで団員たちは、「自分たちが管轄する地域のどこに消防水利があるの

## 消防団は火災に対応する だけが任務ではない

本市では近年、台風や地震といった災害で壊滅的な被害を受けたことはありません。しかし、最近では台風や局地的な豪雨などによる災害が各地で頻発している他、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震の発生も心配されています。災害はいつ、どこで発生するか分かりません。消防団では、今年6月に多種災害へ対応するため、配備されている救助資機材の取り扱い訓練を実施し、団員の意識高揚を図りました。

また、災害時の対応や訓練以外の活動にも力を入れていきます。昨年結成した女性消防団員が中心となって行う応急手当の普及指導、祭りをはじめとする地域行事が開催される際の警備など、地域に密着した活動を幅広く行い、地域住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。



月1回の試運転で団員たちは消防スキルを磨く



方面隊訓練で救助資機材の取り扱い訓練を実施

- 3月
- 2月
- 1月
- 12月
- 11月
- 10月
- 9月
- 8月
- 7月
- 6月
- 5月
- 4月



**消防出初式**  
消防職団員が一堂に会し、防火防災思想の普及と消防職団員の結束を図ります。

**歳末特別警戒**  
火災の多発する時期となることから、火災予防思想の一層の普及を図ります。



**消防団操法大会** 日ごろの訓練により習得した基本的操法技術を競い合い、士気の高揚と技能の熟達に努めます。今年度は9月14日(日)に開催します。



**方面隊訓練**  
各分団の連携を図る訓練。平成26年度は、救助資機材取り扱い訓練を行いました。



**消防団の年間スケジュール**  
消防団に入団すると、さまざまな行事や活動に参加します。ここでは、その一部を紹介します。